

経産牛の肥育について

令和5(2023)年9月 畜産酪農研究センター 肉牛研究室

和牛経産牛の牛肉は、赤身特有の固さがありますが、コクと深みのあるお肉になると言われており、近年の食の多様化や健康志向等により、その価値が期待されています。

ただし、経産牛の場合は、収益を見込める牛を肥育することが重要です！



1 経産牛肥育を検討する時の判断材料

年齢：若い方が良い！

高齢になるほど増体の伸び率が低くなります。

【6か月肥育した場合の増体率】

- ・ 2～7歳未満の牛 増体平均 30%※ (推定：500kg → 650kg)
- ・ 7～9歳の牛 増体平均 20%※ (推定：500kg → 600kg)

※ (独) 家畜改良センター肥育実証試験
(肥育後体重－肥育開始時体重) ÷ 肥育開始時体重

推定尺等を活用した増体確認 **目安：日増体量(DG)1kg/日**

疾病歴：健康な母牛であること！

長年の供用で、疾病を抱えている可能性があります。

肥育することで、体に負担がかかり事故になる可能性があるため、治療歴の多い牛の肥育は注意が必要です。

情勢：相場の見極めが重要！

飼料価格と枝肉相場を見極めた上での判断が重要です。

経産牛の枝肉相場が1,000円/kgを大幅に下回った時期は、肥育にかかった飼料コスト(R4時点)が得られた収益を上回りました(R2～4畜酪センターの場合※)。

※枝肉重量の増加分は、増体重から推定して試算



肥育にかかったコスト



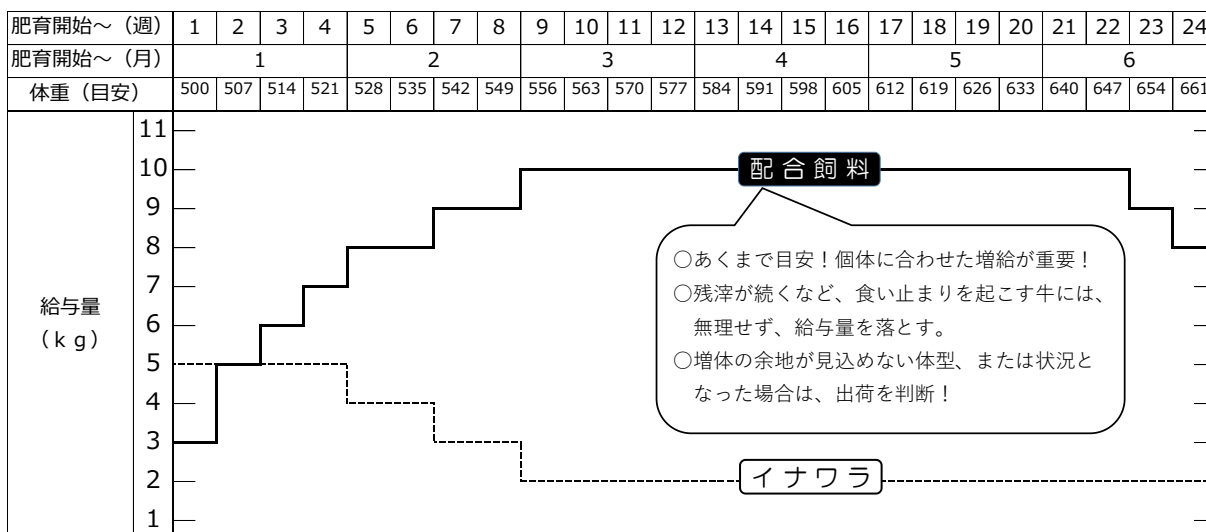
枝肉量が増えたことによる収益

2 経産牛の肥育技術

○若齢牛であれば、肥育による脂肪交雑も期待できます。しかし、基本的に経産牛は、成熟が進んでいるため、増体を重視した肥育が重要です。

→下記メニューは、6か月を目安に記載してありますが、特に高齢牛であれば、増体を見極めつつ、それより短期での肥育を検討してください。

～給与メニュー例～



※和牛経産牛肉の機能性成分等分析事業 事業報告書（令和5年3月）参照

（一社）全国肉用牛振興基金協会

3. その他の注意点

○通常の肥育牛より、高齢であり、肥育は体への負担が大きいため、健康状態を良く観察し、短期間だからといって無理な追い込みはしないようにしてください。

→添加剤等で飼料中のたんぱく質を高めるようなことは、体への負担が大きくなり、むしろ食い止まりを早めることから注意が必要です。

お知らせ



栃木県畜産酪農研究センターHPのご案内

研究成果や技術情報を随時アップしています。

- 畜産酪農研究センターだより（技術対策やイベント等の情報も）
- 肉用牛の繁殖改善マニュアル など



<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g70/index.html>

一度、検索してみてください。



畜酪センターふれあいデーの開催

令和5（2023）年10月14日（土）9:30～15:00

- 試験研究の取組紹介
- 牛舎見学（人数制限あり） など

酪農フェア2023も同時開催！
お待ちしております！！